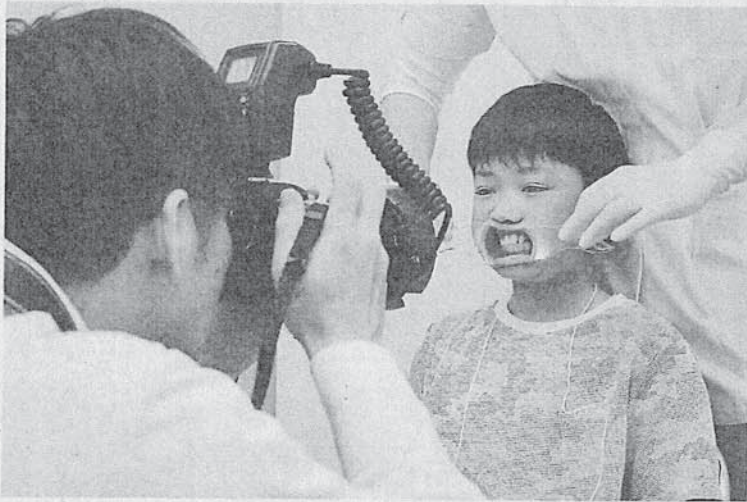


歯並び 健康増進の鍵

黒石市と弘大、ライオン連携



児童の歯並びを撮影するライオンの職員

小学高学年 調査始まる

歯並びと生活習慣の関係性を調べ、健康増進につなげようと、黒石市内の小・中学校高学年を対象にした口腔・歯列調査が8日、始まった。市、市教育委員会、弘大、ライオン(東京都)が連携して3年計画で調査を行い、虫歯や歯周病などのリスクを減らせるよう予防策を探る。市の「健康都市宣言」の一環。(本田海輝)

同市の北陽小学校で会見した弘大大学院医学研究科の中路重之特任教授らは、歯の状態が体の健康と関係があることが明らかになってきている」と説明。高学年児童は、永久歯に生え替わり歯並びが決まる時期に当たることから調査対象としたという。

歯並びの状態を写真に撮るほか、食事の早さや姿勢など児童の生活習慣アンケートを実施し、歯科検診結果なども踏まえ年度ごとにデータを分析する。市などによると、全国でも初めての試みという。

中路特任教授は「これまでではメタボやロコモティブシンドローム(運動器症候群)に焦点を絞り短命県返

上へ向け活動してきたが、歯科・口腔をもう一つの柱として据えることで、健康づくりに活力が生まれれば」と話した。

この日は、同小で保護者から同意を得た児童23人を

調査。ライオンの職員らが①口を閉じた状態②正面と左右から見た歯並び③舌の画像を撮影したほか、立った姿勢が歯並びと関連しているという研究報告もあることから、専用の機器を使

い体の軸のスレなども測定した。今後、市内のほかの8小学校でも説明会を開くなどし、同意を得られた児童の調査を7月までに行つ予定。